

平成 16 年 12 月 1 日

蒲生町長

山中 壽勇 様

岡本区長 安部 春造

ゴミ減量運動の推進ならびに
ゴミ焼却場の見直しについて（提言）

拝啓、初冬の候ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当区の運営に格段のご高配をいただき厚く御礼申し上げます。

去る 11 月 26 日、蒲生町環境推進協議会主催による「環境シンポジウム」が開催されました。蒲生町内外から 340 人という今までにない参加者を募り、環境問題に対して関心の深さを感じるだけでなく、今後の環境に対する町当局の効果的な取り組みを期待するところでもあります。また、今回は、当岡本区の生ゴミを可燃ゴミとして一切出さない運動の紹介をさせていただき、ゴミの減量運動が集落の活性化を促す、新たなまちづくりのための有効な手段のひとつであることを出席された多くの方に知っていただけたのではないかと思います。

今後、ゴミ減量を効果的にまた早急に進めていくためには、甲賀市で実施しています生ゴミ堆肥化プラントを建設するのか、岡本区で実施しています集落ぐるみでのゴミ減量運動の展開を支援（集落ぐるみで減量している組織に補助金を創設することを提案します）するのか早急な比較検討を実施していただき、蒲生町が他町に先駆けて環境の先進町として邁進されることを提言するものです。

この問題の取り組みについては、1 日も早く効果的な成果を上げる必要があります。現在、蒲生町環境推進協議会の組織は、1 部の集落とボランティアでの運営であることから、全町的な広がりに行きづまりを感じるとこ

るであります。よって、蒲生町全体を網羅できる組織体制の構築（各集落及び町内企業団体推薦による推進委員を募ります）を行い、ゴミゼロを目指し、全町ぐるみの事業推進を提言いたします。

つぎに、現在、日野町大字北脇で計画されていますゴミ焼却場の容量の見直しを求めるものであります。「環境シンポジウム」において岡本区がご説明いたしましたとおり、1市7町の人口はさほど増加していないにもかかわらず、10年前(2万4千トン)よりもゴミの量が1.5倍(3万6千トン)になっていることは、効果的な減量運動ができていないことを物語っているのではないのでしょうか？さらに、10年後には現在の1.3倍(4万6千トン。10年前と比較すると約2倍)のゴミの量を想定しています。そして、この4万6千トンでゴミ焼却場が計画されていることを考えると、焼却場が大きければその分だけゴミが増えるという悪循環が生まれ、膨大な管理費と負の遺産を後世に残すこととなります。(計画の日量60トン3基を2基にすることを提案します)

すなわち、番目に、余裕のある大きな施設は、可燃ゴミの増加を促すだけで、ゴミ減量化の運動を阻害する。

番目にこれから始まる国の循環型社会形成推進基本法に基づくゴミ減量運動と逆行する。番目に将来、国の施策に則った可燃ゴミの減量が進むと中部清掃組合のゴミ焼却施設の運営に破綻をきたす。ということが懸念されます。

以上のことを踏まえ、蒲生町は1市7町の先導として「集落ぐるみでの生ゴミ堆肥化運動」を支援することにより、住民主動の自立のまちづくりができるものと思われれます。どうか、以上のことを取り上げていただき、子々孫々に住み良い環境を残すためご尽力いただくことをお願いするものです。